

鬼北の文化

発行所
鬼北町文化協会
(鬼北町教育委員会内)
TEL45-1111
発行人
松岡美保

令和六年度を顧みて

鬼北町文化協会会長

松岡 美保

文化協会の会長を務めさせていただいて二年目になります。昨年は能登半島で、一月には大地震、九月には豪雨がありました。また各地でも大規模な自然災害がありました。一日も早い復興を心より祈っています。

昨年の文化協会の諸行事は、五月十三日広見体育センターにおいて、鬼北町長及び教育課長にご出席いただき、総会を開催しました。

第二十回きほく作品展は、十月十日(木)から十三日(日)の四日間、広見体育センターで実施し、七百四十三名の来場がありました。

きほく芸能まつりは、前回まで新型コロナウイルス感染症の影響や悪天候による警報発令で中止となっていました。十一月十六日(日)五年ぶりに実施することが出来た。音響機器は地元の方に協力いただき、盛大に開催しました。

第七十三回秋季県展移動展は、愛媛県美術館の工事の影響で開催が遅れ、令和七年二月二十六日(水)から三月三日(月)までの六日間で開催します。場所は広見体育センターで、愛媛県美術会との共催です。作品は七十六点を展示する予定

です。三年前から入場料は無料となり、鬼北町出身者の素晴らしい力作が多く出品されています。皆様のご来場をお待ちしています。

ここで、昨年九月に新装された奈良山等妙寺歴史交流館のオープニングイベントに参加したので紹介します。元叡山学院教授の寺井良宣さんの記念講演です。奈良山等妙寺は、千三百二十年に天台宗の戒律復興の修行道場として開かれた山岳寺院跡だそう。中世の等妙寺で執り行われていた「重授戒灌頂(じゅうじゆいかんじゆ)」を解説していただきました。寺を開いた理玉和尚が、比叡山に匹敵する道場として修行を重ね、儀式を執行した等、成り立ちを述べられました。儀式は十二年間の修行を積んだ僧に資格を与えることを目的に、旧境内の如意頭院跡客殿で行い、「仏性が受者の体内に花開いたことを実感させ祝福する」と説いたそうです。寺井さんのお話はとても分かりやすく感動しました。一度は国指定の史跡公園へ足を運んでいただきたく、案内した次第です。

さて、新年を迎えた文化協会は、少子高齢化で会員も少なくなっておりますが、新しく加入した団体もあります。未来に向かつて次世代へと継承していく使命を持って頑張りたいと思います。今後とも、先輩方が残して下さった豊かな文化が向上していきますよう、ご支援ご協力をお願いいたします。

文芸広場

愛治俳句会

代表 久保田 由布

涙声の口読きに合はせ踊るかな
彦星が今年に渡る天の川
千支の蛇嫌はれものの縁起物
ふる里は急坂ばかり草の花
銀杏散り牛舎の道は黄金色
通夜の客去りて閉ぢゆく月下美人
登山道踏みしだかれし濃竜胆

久保田由布
氏本佐喜恵
岡田 正恵
谷 きよし
土居原佳子
古谷 久代
渡邊三代子

令和六年度

県民総合文化祭川柳誌上大会

ジュニア部門入選者(鬼北町関係分)

アコーディオンさらさらとひくドレミファソ

皿みがきさらにさらさらぴっぴか

おふとんがさらさらしててねむくなる

さらさらと風のさんぽだぼくはしる

さらさらと雨の降る中バッティング

かゆい目をこすってゲームあと五分

めをみてねまりせんせいのなしだよ

虫がとぶねこがとびつく家の中

ほうき持ち空飛ぶことを夢見た日

過去最高はしりはばとび砂まみれ

泉 小五 水野 力斗
広見中三 矢口 元史
好藤小一 入山 晴一
日吉小二 佐藤 颯人
広見中三 上甲 壮琉
広見中三 新野 翔太
日吉小一 大平 桃子
日吉小六 城平 有乃
広見中三 濱田夕姫乃
泉 小五 水野 力斗

ちよつと一言

私は、当協会の事務局を担当している者です。担当一年目を終えるというところで、一言書かせていただきます。

記事を読むとお分かりと思いますが、当協会も高齢化による影響が顕著であります。しかし、私たちはこの課題に負けず前向きに活動しております。イベントの来場者数も増加傾向で、来場者の皆様から嬉しいお言葉をいただきます。そんな当協会の活動をちよつと覗いてみませんか。ちよつと話を聞いてみませんか。記事の写真を見て、ちよつと興味があったのではないのでしょうか。そんな方はぜひ事務局にご連絡ください。ちよつと踏み出したその一歩で、これから先の人生がさらに彩られていくことでしょう。

文化協会に加入しませんか

加入すれば

- ・ 地域のために活動できます。
- ・ 他のグループと交流できます。
- ・ 研修や発表の機会があります。

お問い合わせ

鬼北町文化協会事務局
(鬼北町教育委員会内)
☎四五一一一(内線四一二)

編集後記

▼「鬼北の文化第四十号」をお届けします。本紙は年二回の発行ですから、二十年の節目ということになります。この間、貴重な原稿をお寄せ下さいました皆様に厚く感謝申し上げます。▼本紙の記載内容は、協会の主要行事の報告と所属団体の活動状況の紹介が中心で、執筆者は役員と団体の代表者の方々です。加えて町長をはじめ、役場関係の皆様にもたびたび執筆頂きました。▼今回お願いしたのは一般会員の方々の投稿です。日常生活の中での出会いや発見等、お気づきのことをお願いします。また「愛媛新聞」の文芸欄に町内の皆様の入選作を多くお見かけします。ぜひ本紙にもご投稿ください。宛先は教育委員会事務局です。

鬼北の文化編集委員

河 添 英 樹
松 岡 美 保
宇都宮 克 己
武 田 國 次
児 玉 正 則

文化協会総会



きほく作品展



芸能まつり



芸能まつり



等妙寺歴史交流館オープニングイベント

寺井 良宣 氏



鬼北町文化協会副会長
武田 國次

きほく作品展について

第二十回きほく作品展を十月十日（木）から十三日（日）までの四日間、広見体育センターで「ふれようつなごう 鬼北の作品をテーマに開催いたしました。作品展最終日に、「でここんか」のイベントが開催されたこともあり、七百人を超える大勢の方に作品を鑑賞していただき、昨年以上ににぎわいました。近年の出品状況として、保育所・学校関係の若い世代の作品は多いのですが、反面、一般の部の写真・絵画部門等の出品が少なくなっています。出品数は、表のとおりです。特に子供たちの自由でのびのびとした作品を鑑賞することができ、心とむ思いのひと時でした。今後さらに多くの方に楽しんでいただける作品展にするためには、新たな企画を検討する必要がありますと考えております。次年度も多くの方々の出品とご来場をお待ちいたしております。

最後に作品展への出品、準備から後片付けまで、多くの皆様の積極的なご協力に感謝申し上げます。



令和 6 年度きほく作品展 出品数

一 般			
写真・絵画			9
手工芸等			123
書			57
文芸			52
小計			241
子 ども			
平面 (絵画、写真等)	保育所		41
	小学校		158
	中学校		43
立体 (木工、工作等)	小学校		41
	中学校		6
	書	中学校	4
小計			306
合 計			547

五年ぶりにきほく芸能まつり

鬼北町文化協会副会長
宇都宮 克己

きほく芸能まつりもコロナ禍等によつて四年間行なう事が出来ませんでした。昨年は準備万端で出演者も張り切っていたのですが、思わぬ台風の警報によつてできませんでした。

今年度は、十一月十六日（土）に五年ぶりに開催することができました。今回は都合により音響・照明ともに業者が変わり、また、変わった形でお互い協力しながら出来たと安心したところです。出演の方も日舞「慶祥流祥芳会」、ダンスチーム「広蓮」、北宇和高校吹奏楽部」に応援をしていただき、最高に盛り上がった芸能まつりだったと思います。ご協力ありがとうございました。最後に日吉・コールナチュレルの合唱団と来場の皆さんで、「おおシャンゼリゼ」を合唱して有終の美を飾ることができ、会場が一つになって盛り上がり最高でした。

ただ残念に思うのは高齢化によつて出演団体も少なくなり寂しい限りです。次年度はみなさんの協力で、出来る限り最大に行えれば最高だと思っています。ご協力をお願いします。



鬼の窯

鬼の窯
稲葉 慎次

私は、三十二年前に東京から愛媛に飛んで来ました。日吉村という、私にとっては未開の地でした。奥方にとっては地元になります。まずは仕事を見つけて、元が大事、そこから始まりました。子供は早いものですぐ地元になれていました。私は正直怖いもの知らずで生きてきたので、少し凶々しさがありました。そのくらいでないと土地の人との付き合いが出来ないし、子供達の水先案内人にもなりたいたいと思いました。まずは、地元愛護班に入つて子供達に日本の風習鏡開き・七草がゆ等季節にあつたもの作りをしていました。秋には野焼きをしました。森林組合の焼場を貸して頂き、温度は素焼程度までしか上がりませんが子供達と楽しんだ事、今では貴重な体験です。

私にとっては二度目の事。一度目は、陶芸科の生徒だった頃にアルバイトで絵画教室の先生をしていました。その頃に気づいた事で教える事は継承する事だと思いました。二度目は、もちろん愛護班で活動して子供達に物作りを通して文化の継承のお手伝いができ幸せな時を過ごせた事です。今またそんな時間の中に身をおける幸せを、今度は大きな輪の中で仲間と共に歩んでいける実感があります。

また、亡くなられた炎の会のメンバーでした入山さん、古用さんのご冥福をお祈りすると共に、新たに発足する陶芸グループ「鬼の窯」をご支援下さい。なお、



田中 沙織 浜本 初月



兵頭 俊彦 稲葉 慎次

近くで作陶している方がおりましたら当グループに賛同し参加をお待ちしています。

わごブランド
陶房あまやどり
ちいほ窯
デザイナー
以上四名で発足

学校帰りの習い事

習字教室明星
影浦 繁子

日吉地区の習字教室は、通学路にあるため、学校が終わった順にやってきました。コロナ禍からマイコプラズマ肺炎、インフルエンザと、未だにアクリル板の仕切り板がはずせません。学校教育の方もデジタル化、AIの発達と、子供の環境は目まぐるしく動いています。

そんな中で、静かに丁寧に文字に向かう時間を過ごす、好きで書く子、お話をしたい子いろいろ。現在小学生七名、中学生三名の教室です。中学生は金曜日暗くなつてやってきました。部活動もあり少々お疲れぎみだが、熱心に取り組んでいます。

「道」のつく習いごと、挨拶に始まつて挨拶で終わる。身の回りの整理、自分のゴミは自分で、余分なこともこなしていく。友達同士相手を思い合い、伸び伸び成長して欲しい。

そして、その努力の力が将来役に立つことを願っています。

そんな子供の作品発表の場が、きほく作品展と、日吉地区文化祭です。皆様に評価してもらつた良い機会を頂いて感謝しています。

少子化、高齢化と移行するなか、私も終活の歳になります。子供が卒業したあとは、自分の楽しみの時間として書とつきあいたいと思っています。宜しく御指導をお願いいたします。

書き初めの様子を写真で紹介いたします。

